保護者の皆様

平成 30(2018)年 11 月 30 日

豊能町立東能勢小学校校長 新倉 英俊

# 平成30(2018)年度全国学力・学習状況調査の結果について

深秋の候、保護者の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。 平素は、本校の教育活動推進にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、4月17日に行われました平成30年度全国学力・学習状況調査の結果が9月に文部科学省より公表されました。該当学年の6年生児童には個人結果を返却しましたが、本校全体の結果につきまして概況を報告いたします。

調査内容は、国語A・算数A(主に知識)、国語B・算数B(主に活用)、理科(主に知識・活用)、児童質問紙(生活習慣や学習に対する意識等の調査)です。

なお、今回の調査の問題や質問紙の内容は、国立教育政策研究所のホームページ (http://www.nier.go.jp/) で公表されています。また、豊能町の結果概要と分析、今後の取り組み等は、町ホームページ (http://www.town.toyono.osaka.jp/) に公開されていますのでご覧ください。

## 1. 教科に関する調査の結果

国語A 平均正答率は、大阪府と同程度であるが、全国平均より下回った。

- ○「話すこと・聞くこと」の相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら、筋道を立てて話すことについては、全国平均を上回り、よく理解できていた。
- ●「書くこと」の自分の想像したことを表現するために、文章全体の構成の効果を考えることについては、全国平均を下回っていた。
- ●「読むこと」の目的に応じて必要な情報を捉えることについては、全国平均を下回っていた。
- ●「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の目的や場面に応じて適切に敬語を使うこと については、全国平均を大きく下回っていた。

国語B 平均正答率は、大阪府を上回ったが、全国平均を下回った。

- ○「書くこと」の他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉えることについては、 全国平均を上回っていた。
- ○「読むこと」の目的に応じて、複数の本や文章などを比べて読むことについては、全国平均を 大きく上回っていた。
- ●「話すこと・聞くこと」の質問の意図を捉えたり、計画的に話し合うために司会の役割について捉えたりすることについては、全国平均を下回っていた。
- ●「書くこと」の目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることについては、全国平均を大きく下回り、多くの児童ができていなかった。

算数A 平均正答率は、大阪府と同程度であるが、全国平均をわずかに下回った。

- ○「量と測定」のどちらが混んでいるかを答えることや分度器の 180 度以上の角の大きさを計算で求めることについては、全国平均を上回っていた。
- ○「数と計算」の除法で表すことができる2つの数量の関係を理解することについては、全国平均を大きく上回っていた。
- ●「数と計算」の数量関係を捉え、数直線上に表すことについては、全国平均を大きく下回り、 約半数の児童ができなかった。
- ●「数量関係」の百分率を求めること、折れ線グラフから2量の関係を読み取ることについては、 全国平均を大きく下回り、半数以上の児童ができなかった。

算数B 平均正答率は、大阪府、全国平均を下回った。

- ●「図形」の敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見つけ出すことについては、全国平均を大きく下回っていた。
- ●「数と計算」「数量関係」の示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、式 や言葉などで表すことについて、全国平均を下回り、約半数の児童ができていなかった。
- ●メモの情報からグラフを多面的に捉えることについては、全国的にも正答率の低い問題であったが、全国平均を下回り、多くの児童ができていなかった。
- ●他者の考えを読み解き、言葉で表したり、式に表したりすることについては、全国平均を下回っていた。
- ●複数の情報を整理して考えたり、複数の条件を数式に当てはめ、適しているものを見つけ出し たりすることに課題が見られた。
- ●結果に基づく根拠を説明する際、論理的な思考や説明に不十分さが見られた。

理科 平均正答率は、大阪府を上回り、全国平均とほぼ同程度であった。

- ○「活用」に関する問題の川の上流側の天気と下流側の川の水位を関係付けながら分析して考察 することについては、全国平均を大きく上回っていた。
- ●他者の考えを理解して結果を推測することについては、全国平均を下回っていた。
- ●たくさんある情報の中で、必要な情報だけを選び、答えを導き出すことに課題が見られた。

## 【課題克服に向けての今後の取り組み】

- ○基礎的・基本的な学力の定着を図りながら、活用力を身に付けさせる。
- ・文章全体の構成の工夫とその効果を捉えるという観点で、作品を読ませる。
- ・課題を解決するために、必要な情報を捉えて読む活動を意図的に学習に組み込む。
- ・目的に応じて必要な叙述を選び、他の部分に書かれている叙述と比べたり、自分の知識や 経験、考えなどと関係付けたりしながら自分の考えを明確にし、まとめることができるよ う指導する。
- ・式、図、表、グラフ、言葉などを結びつけ、論理的に表現していく学習を行う。
- ・日常生活に関わる問題を取り上げ、複数の情報を関連付けて論理的に考察し、表現したり、 適切に判断したりすることができるように指導の充実を図る。

## 2. 児童質問紙調査の結果

全国と比較して、多くの質問項目において肯定的回答が上回っていました。

児童質問紙の項目のうち、国立教育政策研究所の分析報告書より、学力と一定の関係の見られるものについて掲載します。

- ◎肯定的回答が全国の数値より高く、当てはまるが全国の数値より高かったもの
- ○肯定的回答が全国の数値より高かったもの
- ●肯定的回答が全国の数値より低かったもの

## 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取り組み状況】

- ◎5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、 資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。
- ○5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと 思う。
- ○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。

### 【理科に対する調査関連】

- ◎理科の授業の内容はよく分かる。(全児童が肯定的回答をしている)
- ◎自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある。(全児童が肯定的回答をしている)
- ◎理科の学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- ◎観察や実験を行うことが好きだ。
- ◎5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思った。
- ◎ 5年生のとき,理科の授業を受けた後に,習ったことに関わることで,もっと知りたいことがでてきた。
- ○理科の勉強は好きである。
- ○理科の授業では、自分の予想を基に観察や実験の計画を立てている。
- ○理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている。
- ●理科の勉強は大切だと思う。

#### 【規範意識、自己有用感等】

- ◎先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。(全児童が肯定的回答をしている)
- ◎人の役に立つ人間になりたいと思う。(全児童が肯定的回答をしている)
- ○自分には、よいところがあると思う。
- ○学校のきまりを守っている。
- ○いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。(全児童が肯定的回答をしている)

自尊感情に関する「自分にはよいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問項目について、多くの児童が肯定的な評価をしていました。ただし、「自分にはよいところがあると思いますか」という質問項目では、「当てはまる」ではなく、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童が多く、依然として自尊感情を育むことに課題があります。

#### 3. おわりに

学力は、積み上げられていくものであり、6年生の課題は、1年生から5年生までの課題として捉え、学校全体で課題の克服に向けて取り組んでいきます。学校では、児童の「確かな学力」を育むために、日々の授業を重視し、各学年における基礎的・基本的な知識の確実な定着を図り、獲得した知識を活用できる力を育むための授業をつくっていきます。そのために、継続して「東の世学びのスタンダード(学習規律)」を徹底し、児童の学習に向かう姿勢を整えていきます。そして、「とよの授業スタンダード」に則った授業を構成し、児童が主体的に思考し、判断し、表現する授業を行っていきます。また、毎日行われる授業の中では、児童同士が学び合い、つながる場面の設定を大切にしていきたいと考えます。それは、学び合いによってわかったり、できるようになったりすることが、児童の学力を向上させるだけでなく、学習意欲や自己肯定感をも高め、児童と児童の豊かな人間関係も育むことができると考えるからです。以上のことは、本校の目指す「豊かな心で人とつながろうとする子ども」「自分の思いや考えを伝えられる子ども」「目標を持って、あきらめずに取り組もうとする子ども」という

以上のことは、本校の目指す「豊かな心で人とつながろうとする子ども」「自分の思いや考えを伝えられる子ども」「目標を持って、あきらめずに取り組もうとする子ども」という子ども像にもつながっていきます。そのためには、教員の授業力の向上が欠かせません。教職員が一丸となって研修・研鑽を積み、授業改善に努めていきます。

今後とも、ご家庭や地域の皆様と連携しながら取り組みを進めてまいりたいと思いますので、学校教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いたします。